

令和8年度第2回白井市市民活動推進委員会

- 1 開催日時 令和8年6月16日（火）午前10時～正午
- 2 開催場所 白井市役所東庁舎1階 会議室101
- 3 出席者 関口宏聡委員、出川真也委員、近藤健司委員、赤間賢二委員、
成田秀雄委員、大田茂子委員、富沢賢司委員、菊池由紀子委員、
篠原美保委員（名簿順）
- 4 欠席者 眞田晃良委員、高城久美子委員、木下新治委員
- 5 事務局 安岡課長補佐、栗原主任保健師、伊東主事
- 6 傍聴者 なし
- 7 議 事
 - （1）令和8年度市民団体活動支援補助金の審査結果について
 - （2）令和7年度市民団体活動支援補助金 公開成果報告会
 - （3）その他

8 会議概要

○事務局

定刻となりましたので、ただ今から令和8年度第2回白井市市民活動推進委員会を開催します。

委員の皆様におかれましては、本日もお忙しい中、ご出席いただき誠にありがとうございます。今日は、●●委員と●●委員から、都合による欠席のご連絡を頂いております。

開会にあたり、委員長からひと言ご挨拶をいただきたいと思います。よろしくお願いいたします。

○委員長

みなさん、今日もお忙しい中お集まりいただきありがとうございます。

今回は、前回の会議で補助金審査を実施しましたのでまずはその御報告と、昨年度に補助金を使って活動していただいた団体の皆様をお呼びして成果を発表していただくということになっております。

○事務局

委員長、ありがとうございます。

本日の会議は、白井市附属機関の会議の公開に関する指針に基づき、すべて公開といたします。

なお、後日、会議録を作成し公開するため、会議の発言を録音いたしますので、あらかじめご了承ください。また、会議録反訳の精度を上げるため、ご発言の際は必ずマイクを使用するようお願いいたします。

それでは、早速ですが次第2、議事に入ります。ここからの進行は、委員長にお願いします。よろしくお願いいたします。

○委員長

それでは、議題の1、令和8年度市民団体活動支援補助金の審査の結果について、事務局から御説明をお願いします。

○事務局

それでは、議題の1について、事務局から説明させていただきます。資料1を使って御説明させていただきますので、資料1を御覧ください。こちらは、5月13日に開催しました審査会での審査結果をまとめたものになります。審査会に御出席いただいた方については、既に御承知いただいているところですが、今年度の申請事業や、補助金をどうやって審査したかという審査の手順について、そして審査をした結果について報告させていただきます。

1 ページ目を御覧ください。1、補助金応募申請団体についてです。

令和8年3月2日から4月10日までの1か月ほど、補助金への応募を募ったところ、計4団体から応募がございました。活動促進型には、白井写真部、おもしろいタウン、桜台剣友会の計3団体、活動発展型には、白井市文化センターを未来につなぐ会の1団体が補助金に応募されました。

次に、2、審査過程を御覧ください。

補助金に応募された4団体の事業の採否を決めるため、5月13日に審査会を開催し、審査委員の7名に審査を行っていただきました。

当日の流れとしては、まず団体ごとにプレゼンテーションと委員からの質疑応答を実施した後、2ページ目に書いてある審査方法及び手順に基づき採点を行って、総合的に審査を実施いたしました。プレゼンテーションの概要については、下に記載のとおりになります。

2 ページ目の3、審査方法及び手順を御覧ください。

審査の際は、表に書いてある必要性、公益性、実現性、自立性、自発性、事業効果の6つの審査項目と審査ポイント、また、表の下に書かれている採点区分に基づいて、各団体の項目ごとの点数を審査委員さんがプレゼンテーションや質疑応答を踏まえて採点をいたしました。なお、活動促進型については、事業効果を除いた5項目で審査を実施しております。

採否を決定する方法としては、各委員の採点結果を事務局で集計いたしまして、合計点数の平均点を算出いたします。平均点が採択基準点を満たしている団体で、得点が高い団体から順番に採択することとなっています。なお、採択基準点は、活動促進型であれば、30点満点中15点以上、活動発展型であれば、40点満点中24点以上を得点していれば採択基準点を満たしているということとなります。

3 ページ目を御覧ください。4、審査の結果についてです。

結果といたしましては、計4団体から申請をいただいたところ、4団体全てが採択ということとなりました。

4ページ目を御覧ください。5の審査結果の詳細についてです。

こちらは、審査をした結果の団体ごとの点数や、審査コメントを書かせていただいております。簡単に団体の概要と審査結果について読み上げさせていただきます。

1団体目は、白井写真部です。事業名は未来の記憶写真館で、ふるさとまつりの来場者の記念撮影を行うことで、地域での思い出を創出し、市民の白井市への愛着を深めることを目的として実施する事業となります。

合計平均点数は23.4点で、78.1パーセントの得点率となっています。

なお、審査コメントとしては、もともと行政主催の事業を市民有志が継続に向け取り組むことを評価する一方、団体が設立したばかりということもあり、団体の発展性の方向性が決まっていなかったようであったので、今後検討してほしいということと、単なる一イベントの取組ではなく、日常化できるような仕組みへと発展してほしいということを記載いたしました。

2団体目は、おもしろいタウンです。事業名は、こどものまち おもしろいタウンで、子供たちが主体的にやりたいことを考え、実現できる場として本事業を実施するというものでした。

合計平均点数は24.1点で、80.5パーセントの得点率となりました。

審査コメントとして、この事業は、子供の主体性や思考力等を育む機会であり、子供の健全育成、社会教育の観点から意義深い取組であるということの評価する一方、多くの子供たちが参加する事業でもあるため、不測の事態に備えた安全対策や実施体制を取ってほしいということと、今回は、南山小学校の体育館で実施するというものでしたので、もっと多くの子供たちが参加する機会が得られるように、市内各地で取組を展開してほしいということを記載いたしました。

5ページ目を御覧ください。3団体目は、桜台剣友会です。事業名は、地域剣道を核とした「子供成長・地域交流プロジェクト」ということで、概要といたしましては、剣道を通じて子供の健全育成、保護者同士のつながり、そして地域交流を同時に促進する地域課題の解決のための事業として実施するというものでした。

合計平均点数は21.1点で、得点率は70.5パーセントとなりました。

審査コメントとしては、桜台地区が中心の活動となっていますが、子供たちが礼儀作法などを体験する機会として有益な試みだと評価する一方、桜台地区だけではなく、ほかの地区でも多世代の交流や地域のつながりの創出などにつながる取組を実施することを期待すること、そして、活動については、市民の連携が進む取組となるよう活動を通じて工夫やノウハウの蓄積をしてほしいといったコメントを載せさせていただきます。

最後に4団体目として、白井市文化センターを未来につなぐ会です。事業名は国際文化でつながる平和の祈り カテリーナコンサートで、概要は、文化センターの大切さを市民と白井市に知っていただくためにコンサートを企画するという事になっています。

合計平均点数は26.7点で、得点率は66.8パーセントとなりました。

審査コメントは、ホールの特性を生かしたイベントとなっており、市民が魅力を再発見する機会となることに期待する一方、活動が続けた先のつながる未来が共有しづらいので、このイベントを実施する意義を明らかにできるとよかったということと、多くの市民が文化センターの魅力に気づくことのできるイベントになるように、さらに工夫してくださいということ、そして、一過性のイベントで終わらないようにしてほしいということと、ウクライナの方をお招きするのであれば、平和啓発要素などが事業に盛り込まれるとよいといったコメントを記載させていただいております。

6ページ目については、補助金の審査に関わっていただいた委員の皆様の所属とお名前を載せさせていただいております。

事務局からの報告は以上になります。

○委員長

ありがとうございました。何かあればお伺いしたいと思いますが、よろしいですか。すでに答申してしまっているものなので、取りあえず、こういう結果で補助金担当の委員でやらせていただきましたということで御報告させていただきます。

それでは、今日のメインの議題となる、成果報告会に移っていききたいと思います。

ここから計3団体、それぞれ20分ずつ時間を取りまして、最初の10分で団体さんからの報告で、残りの10分で質疑応答という感じで進めていきたいと思います。

ただ、今回は、審査ではなくて成果報告会ですので、多少、時間は柔軟に取っていききたいと思いますので、そんな感じで進めていきたいと思います。

それでは、事務局から、まず流れの説明をお願いいたします。

○事務局

それでは、議事2について事務局から説明いたします。資料2をご覧ください。成果報告会を開催するにあたり、進め方など概要を確認させていただきます。

まず成果報告会の目的についてです。この報告会は、昨年度に補助をされた事業の実施結果について、審査を行った市民活動推進委員会が活動の成果を確認するための場として設けております。

1団体につき報告時間は10分、質疑時間は10分程度で行います。質疑の際は市民活動推進委員会委員からのご質問にお答えください。報告の順番は表のとおりで、3団体目の発表が終了しましたら成果報告会は終了となります。

3、報告事項をご覧ください。各団体の発表は、(1) 事業目的、(2) 事業の内容、(3) 事業実施にあたって発生した問題とその対応策、(4) 事業成果と今後の課題、(5) これからの展望の5つのポイントを踏まえて発表していただきます。

なお、委員の皆様には資料3として各団体の審査結果と実績報告書を資料としてお配りをしております。委員の皆様におかれましては、そちらも併せてご利用いただき、質疑に臨んで頂ければと存じます。

また、希望のあった団体のみ、皆様に団体配布資料として用意しておりますので、併せてご活用ください。説明は以上です。

○委員長

ありがとうございます。成果報告会の進め方について説明がありましたが、御質問のある方はいらっしゃいますか。

それでは、早速ですけれども、始めてよろしいですか。

そうしましたら、まず1番目の団体さんの、ひだまり食堂さん、御準備いただけますか。審査会ではないので、リラックスしてお話しいただければと思います。どうぞ。

○ひだまり食堂

ひだまり食堂の●●と申します。よろしくお願いいたします。座って話をさせていただきます。

では、昨年度の活動内容の報告をさせていただきます。

私たちは、ひだまり食堂という団体でして、関わる全ての人が心豊かになれる場所というコンセプトで、昨年度1年間活動しました。

活動の概要としましては、実は団体発足当初から、活動内容というのを少し変えながら1年間活動しました。というのも、昨年5月に第1回目を行いまして、約1年間継続して活動してきたのですが、やっていくうちに幾つかの課題が見えてきて、足りない部分とか、いろいろと出てきたので、その点を踏まえて、少し活動内容を変えながら、大きくは変えていないのですけれども、マイナーチェンジしながら活動を行ってきました。

料金に関してなのですが、発足当初は、18歳以下は100円、大人は300円という料金設定で行ってございました。今は変えていまして、18歳以下は無料、大人は400円としています。昨年1年間は、子供100円、大人300円で活動していました。このあたりも後ほどお話しいたします。

開催日としては、毎月最終日曜日に、西白井コミュニティプラザで行っております。

定員も、実は最初20名で行っていたのですが、西白井コミュニティプラザの調理室のキャパを考えて、現在は18名ほどに変えさせてもらっています。

活動内容としては、主に食事の提供です。調理室を借りて、12時から13時までランチの提供を行いました。

子供たちが気軽に集まれる場所というのをコンセプトにしておりますので、10時から12時までにはボードゲームや工作ができるような場所もつくっております。このボードゲームや工作は、完全無料で提供しております。

ひだまり食堂の3つの狙いということで、私自身、子供が2人おまして、子育て中である私たちだからこそできることということで、3つの狙いを掲げています。

1つ目が、地域の人たちとのつながり、望まない孤立を減らすということ。2つ目が、子育て中の親が、ほっと一息つける場を提供するという。3つ目が、多世代交流によるにぎわいづくりです。

実はこれも、発足当初の掲げていた3つの狙いでして、これも大きくは変えてないのですが、このコンセプトも実は今ちょっと変えています。次のスライドに記載のものが今のコンセプトです。

1つ目が、「子供たちが安心して集える場所」。先ほどの地域の人たちとつながり、望まない孤立を減らすというところから少し変えているのですが、やはりなるべく多くの子供たちに来てもらえる、子供たちが気軽に来られるということで、ハードルを下げたいという狙いがありまして、表現などを変えています。

2つ目が、「地域社会で子育てを支援する」です。これも子育て中の親が、ほっと一息つける場を提供するというところから表現を変えています。共働き世帯が今多く、なかなか横のつながりができないとか、そういう課題が見えてきたので、子ども食堂とか他のサークルさんも含めてですが、そういった全体で、地域社会で子育てを支援するというコンセプトに変えています。

これも後ほどお話に出るかと思うのですが、結構PR活動も行っていて、意外と毎月1組ぐらいは、新規の参加者が来てくれていて、緩やかですが結構認知は広がっていて、ママさんたちとかパパさんたちの横のつながりもできているのではないかなという実感はあります。

3つ目が、「関わる全ての人たちのウェルビーイング実現に貢献する」です。この多世代交流によるにぎわいづくりから変えています。参加してくれる子供たちとか保護者だけではなくて、スタッフを含めた全員が幸せになれるような場をつくりたいという思いで表現を変えています。

活動写真を御紹介いたします。こちらは、たしか夏前ぐらいの活動写真です。見て分かる通り、子育て世代の方たちがメインになっています。

ここでPR活動も御紹介するのですが、主にはホームページとインスタグラムでPR活動は行っております。あとは、意外と口コミも結構広がっているみたいで、参加者がほかの参加者を連れてきてくれたりとか、参加してくれた子供がほ

かの子供たちを連れてきてくれたりとか、少しずつ認知は広がっているかと思います。

あとは、手前のほうにスタッフが見えているかと思うのですが、右側の写真です。スタッフ集めに関しては、ボランティアセンター、あとホームページ、紹介、あとは地元の高校からも協力を得て活動しています。ホームページを見て、手伝わしてくださいという方が意外としまして、2名、それぞれ市川市と柏市から、わざわざ来てくれて手伝ってくれています。

こちらハロウィンイベントです。仮装して、子供たちが参加してくれました。こちらは12月のクリスマスイベントです。カップケーキづくりイベントというのを行いまして、定員は5組ぐらいだったのですが、多く集まって来て、みんな最後にケーキを食べたという会でした。

写真の右側に写っているジャージを着ているのが高校生2人です。地元の高校から来て、手伝ってくれました。

ひだまり食堂では、現在、ほかのサークルとのコラボというのも大事にしておりまして、こちらの写真は白井の小学校で絵本の読み聞かせを行っている、おはなしトランクさんです。このときは、絵本の読み聞かせと工作を行ってくれました。

こちらは、地元の白井の農家さんから頂いた野菜の寄附です。大体毎月、端境期とかはなかなか頂くことは難しいのですが、ほとんど毎月このくらいの、写真1枚分ぐらいの野菜を頂いています。全部、白井の無農薬の野菜です。

今後の課題としては、まず子供たちだけでも参加しやすい仕組みをつくるというのが、今一番大きな課題だと感じています。

今は、Googleフォームで申込みを受け付けるようにしているのですが、ここはハードルがある一方で、ただ、Googleフォームはすごく便利で、なかなか子供たちだけで参加しやすい仕組みをつくるというのが今、結構悩んでいるというか、どういうふうに仕組み化すればいいかなというところで今、考え中です。

あともう一つは、スタッフの負担を減らすということです。スタッフというか、私の負担を減らしたいという思いがあります。スタッフに毎月来てもらっているのですが、なるべく、当日来てお仕事して帰るみたいな、無駄のない活動をしたいと思っておりまして、ミーティングもほとんどやりませんし、あとはミーティングのほかにも、集まる回数とかもできるだけなくすようにしているので、これもうまく仕組みをつくって、スタッフの負担をどんどん減らして、その日だけに集中してできるような仕組みをつくっていけたらなと思っております。

以上になります。ありがとうございました。

○委員長

ありがとうございました。それでは、委員から質問等させていただきたいと思います。審査ではないので、質問でもよろしいですし、感想とかコメントとかエールとか、応援でも何でも大丈夫ですので、何かありますか。

●●委員、どうぞ。

○●●委員

ホームページも拝見させていただきました。それで、今年度も継続していくというのですが、予算上は特に問題はないでしょうか。

○ひだまり食堂

予算上は、民間の団体から支援を頂いているのと、あとは毎月の売上だとか、野菜の寄附ももらえるようになったので、今年度は問題なく運営できるかなと考えております。

○●●委員

ありがとうございます。

○委員長

ありがとうございます。すごいですね。独自ドメインまで取ってあって、しかも、チラシもとてもレベルが高いのですけれども、デザイナーの方とかが作ったのでしょうか。

○ひだまり食堂

そうです。元デザイナーの方に作っていただいています。ホームページは私が作っています。

○委員長

そうなのですね、素晴らしい。しかも、28日は満員御礼ということで、素晴らしいです。

ほかはいかがですか。

○●●委員

申し訳ありません、もう一つよろしいですか。

食事を作ってくださるスタッフは、高校生も含めて、子育て世代以下の方々なののでしょうか。いつも何人ぐらいの方がいらっしゃるのでしょうか。

○ひだまり食堂

ありがとうございます。毎回スタッフは10名ぐらいで運営しています。大体レギュラースタッフが今、15人ぐらいです。2、3か月に1回だけ来てもらうという方もいるので、大体、1回あたり、最低でも8か9人ぐらいはいるかと思います。平均すると10人ぐらいです。

○●●委員

そうすると、8、9人の方が18人分を作るということですか。

○ひだまり食堂

スタッフの食事もありますので、もっとですね。少し多めに作っているので、大体 35 人分ぐらい毎回作っています。

○●●委員

ありがとうございます。

○委員長

ほかはいかがですか。

●●委員。

○●●委員

ボランティアセンターで関係性を持たせていただいているということで、ひだまり食堂を利用される方はもとより、ボランティアさんの生きがいにも通じていると思いますので、引き続きの活動の活性化を願っております。よろしくお願いいたします。

○ひだまり食堂

ありがとうございます。

○委員長

ありがとうございます。ほかはどうでしょうか。

どうぞ。

○●●委員

スライドで見せていただいたのですが、中学生ぐらいの子供たちは来ていることがあるのかなというのと、あと、このチラシを見ると、和室で学習のサポートをするということが記載されていて、勉強も教えてくださっているということが、とてもいいなというふうに思っていて、それについて教えていただけたらと思います。

○ひだまり食堂

ありがとうございます。

中学生は、正直あまり来ていなくて、メインは未就学児と小学生、あと、たまに高校生で、中学生はそんなに多くないです。来てはいるのですがけれども、そんなに多くないです。

そこもハードルだなと感じていて、やはり小さい子は、遊ぶおもちゃとかボードゲームとか工作とかがたくさんあるので、気軽に来てくれるのです。ただ、やはり中学生、高校生になると、部活が忙しいとかもあるでしょうし、子ども食堂に対する先入観と言いますか、来ていいのかなとか、そういう気持ちもあるので、そこら辺は障壁を取っていきたいと思っています。

2つ目の御質問の学習サポートについては、昨年度は6月、7月ぐらいから継続してやっていたのですが、なかなか運営が難しいところがありまして、今は一旦、休止という状態です。

その代わりに、食事を充実させる、イベントを充実させる、ボードゲーム、工作を充実させる、あとは、ほかのサークルとのコラボというところも結構考えていて、今年の12月にハンドベルサークルの方に来てもらって、クリスマスの演奏会などを計画しています。学習サポートができなくなってしまった分、ほかを充実させていきたいというところで考えています。このような回答で大丈夫ですか。

○●●委員

ありがとうございます。

○委員長

ありがとうございます。ほかはどうでしょうか。

どうぞ。

○●●委員

御説明ありがとうございました。

運営や方針を変えながら進めたというお話がありまして、長く継続していくには、そういった活動はとても重要だし、大切な要素かなと思っています。

あとは、御説明の中で、打合せもほとんどやらないという中で、そういうふうに改善していく、その取組をどう工夫されたのか、気をつけてやっていったかお聞きしたいです。

○ひだまり食堂

ありがとうございます。

運営は、私が代表で、もう一人、妻がいて、家で結構、子ども食堂をどうやっていこうみたいな話を妻と2人でしているのです。なので、方針とかは正直、私と妻で話しています。あとは、子ども食堂当日には、スタッフたちと話す時間がたくさんあるので、そこで、それぞれの思いなどをヒアリングしつつ、私と妻でまとめているという感じです。

なので、特別何かコンセプトを作るミーティングとかはしないで、コンセプトを決めて、スタッフにこういうことをやりたいですみたいな感じで、ちょっと確認してもらいたい雰囲気かなと思います。

なかなかミーティングする時間というのが、別途取るのが難しいので、そこは私と妻でやっているという感じです。こんな回答でよろしいですか。

○●●委員

はい、ありがとうございました。

○委員長

ありがとうございます。ほかはどうですか。

どうぞ。

○●●委員

今、ほかのサークルとのコラボを考えているというお話がありました。実は私も子ども食堂の運営を経験しているのですが、食事を食べさせるだけじゃなくて、食べさせる前とか後にも、子供たちにいろいろと遊ばせたり教えたりすることができるような、そういうサークルが何件かあれば、子供たちも大変喜ぶのかなと思っています。この取り組みは本当に素晴らしいなと思っています。ありがとうございました。

○委員長

ありがとうございます。ほかはどうか。

どうぞ。

○●●委員

非常にいい取組だなと、写真も見ていて、なかなか楽しそうだなというのが印象に残りました。代表として、今回の1年間の取組で最も印象に残ったエピソードがあれば教えていただきたいのと、また逆に、最も大変だった場面とかあれば、教えていただければと思いますが、いかがでしょうか。

○ひだまり食堂

ありがとうございます。

大変だったところからお話しします。何月か忘れてしまったのですが、偶然スタッフの都合が悪いタイミングが重なってしまい、本当にスタッフが集まらなかったときがありました。そのときは、ボランティアセンターに声をかけたり、あとはスタッフに、ほかに手伝ってくれる方はいませんかというお声がけしていただいたりして、やっと少し集まりました。あとは食事のメニューを簡単にして、乗り切った記憶はあります。それが大変だったなという印象があります。

印象に残ったエピソードは、今ぱっと思いついたものですが、ひだまり食堂のスタッフの中に教員の方がいらっしゃるのですが、その方の元教え子で、生活がいろいろあって大変な子というのがいまして、その子をその先生が呼んでくれて、食事しに来てくれて、その食事の代金、当時100円頂いていたので、その100円は、その先生がお支払いして食事をしたというのは、すごく印象に残っているエピソードだと、今ふと思い出しました。

○委員長

ありがとうございます。ほかはいかがですか。

●●委員、どうぞ。

○●●委員

子ども食堂に来てくれるお子さんたちはリピーターが多いか、それとも新規でばらばら来られる方が多いのかということを知りたいです。

○ひだまり食堂

ありがとうございます。

私の目標としては、7、8割がリピーター、2、3割が新規というイメージで運営していますが、実情は、定員18名程度ということでやっているの、世帯で言うと毎回7世帯ぐらいです。そのうち新規は大体1、2世帯、あとがリピーターという感じなので、目標には届いていないのですが、毎回1組、新規で来てくれているかなというところですか。

○委員長

ありがとうございます。ほかはいかがですか。よろしいですか。

では最後、私からよろしいでしょうか。このホームページも拝見していて、私もいろいろな団体さんのホームページを見ることがあるのですが、活動報告と寄附のお礼というのを、しっかりと小まめに上げている団体さんとか、ありそうでかなり少ないのです。

写真も顔にはモザイクを入れていただいている、いろいろと配慮も行き届いているなと思いましたので、本当にレベルの高い活動をされている団体さんだと思いますので、今年度は補助金には応募していませんが、民間の助成金などをぜひ御活用いただいて、細く長く活動していただければなと思いました。

それでは、ひだまり食堂さんの報告は、以上とさせていただきたいと思います。どうもお忙しい中ありがとうございました。

では続きまして、「ほんとうに住みやすい白井」を本当にする会さんをお願いしたいと思いますので、御準備をお願いします。

○「ほんとうに住みやすい白井」を本当にする会

「ほんとうに住みやすい白井」を本当にする会です。

昨年グリーンスローモビリティの実証実験ということで、一度、試乗会をやらせていただいたので、御存じの方は何人いらっしゃるかと思います。

今回の補助金の対象としては、タイトルにあるように、グリーンスローモビリティ運行に向けての実証実験に関わるPRとか、あと講演会活動ということを今回のメインにしています。

事業の目的といたしましては、まず前提となったのは、地域住民の移動に関する利便性が悪いということで、路線バスが大幅に減便になったとか、ナッシー号のルートがあまり適切じゃないとか、あと、私の地域だとスーパーまで1キロぐらい離れているのですよね。そういうことがあって、地域の問題点としては、高齢者が免許を返納できないという話から始まっています。

今回の事業実施で狙う効果としましては、このグリーンスローモビリティの実証実験を行って、多くの市民に試乗していただき、地域の活性化と未来を考える機会をつくるということで、その前段として、今回の補助金事業のメインになる講演会を開かせていただいて、これからの公共交通について、いろいろ御理解をいただくということを目的としています。

事業の内容として、事前にアンケートを採ってニーズとかを把握しようという話から始まっています。

アンケートを実施しているのですけれども、本当に困っているところで七次台の地域とかの道、この辺と、あと、ほかに各公民館のほうにアンケート用紙を置いて、6月から7月ぐらいに実施させていただきました。

回答としては、特に移動手段で困っていることといたら、やっぱり路線バス、コミュニティバスがなかなかない、運賃が高いとかという話から、具体的に行きたい場所どこですかといたら、駅が多かったです。駅とか、あと市役所、公民館に行くということ、あとアリオ柏という施設、ああいうところに行きたいという回答もありました。

使用したい場所、どういうことに使いたい、このグリーンスローというものがあつたら、どう使いたいかとといったときに、やっぱり買い物が一番多かったかな。それで、鉄道への乗り継ぎとか、公民館と文化センターと、通院という回答された方も結構いらっしゃいました。

2つ目の事業として、講演会を開かせていただきました。テーマとしましては、白井市における新しい公共交通がもたらす未来の都市生活というタイトルで、ここにいらっしゃいます東京都市大学で教授をされています西山敏樹先生をお呼びいたしまして、10月4日に開きました。

参加人数は49名で、大体100人ぐらいの参加を予定していましたが、半分ぐらいの49名、ここに写真にあるように、たくさんの人が集まってくださって結構盛況で、いろいろ質問もたくさん飛んで、楽しくやらせていただきました。

その後講演会のアンケートを採ったのですけれども、大いに参考になったとか、いろいろな視点があって参考になったという意見が大半を占めまして、なかなか聞いた私たちも、これはやってよかったなと感じました。

結局それが、その後の実証実験につながるということになります。実際、今回の補助金の対象外ではあるのですけれども、これが、うちの活動としてはメインになるところではあるわけで、実施期間を11月の16日から、ほぼ2週間、この写真にある車両を使って実施しました。

特に交通が不便だったという今、私の住んでいる地域、七次台3丁目、野口というところを基点にしまして、そこから西白井駅方面とかスーパーのタイヨーの方面だとか、あとコミュニティプラザのほうにも1回走らせているし、文化センターのほうは、文化センターというのは日曜日、ナッシー号は走っていないから、日曜日に文化センターまで走らせてみようみたいな形で、これは結構御利用があったところですよ。

それと 22 日に、おさんぽ試乗会、これは車いすも載せられる車なので、障害者の方を中心にして、あちこち出かけてみませんかという話で、1 日そういう特別な日を設けさせていただきました。

3 番目は、ちょうどたま、まちボラひろばが 30 日にあったので、ちょうどこちらのこの期間の最終日だったので、この周りをぐるっと回らせていただき、結構たくさんに乗っていただきました。

そういうことをして、乗車人数、全部で大体 256 名という人が 2 週間の間に乗っていただきました。

それを受けて、今度は、その結果の取りまとめをして報告をするというのが今回の事業の最終的なところですよ。

アンケートの集計をしたのが 12 月ぐらいで、どんな回答あったかというのと、もっと項目いっぱいあるのですけれども、主なところだけ挙げると、気分はいかがでしたかという、乗りやすいし、ゆっくり走るし、静かだから落ち着いた気分になった。あと、車内でいろいろな同乗の人と話せてよかったというような声、半分以上、大体そういう方の声が挙がっています。

今後でも利用したいかという話になると、今後でも利用したい、早期導入を願うという方が一番多くて、117 のうち 68。ルートやダイヤによっては導入してほしいというのも含めると結構、7 割、8 割の方が、そういうふうに感じていると回答しています。そういう感想とか、実際に私もこれ運転したのですけれども、車内でお話をいろいろされて、なかなかコミュニティーの面でも、本当に良好だったなというふうに感じております。

本格的な導入を望む声はかなり多かったということで、この集計を含む報告書を作成しまして、1 月に都市計画課、今は未来創造戦略室になっているのですけれども、そこに提出いたしまして、白井市地域公共交通活性化協議会、こちらのほうの協議会のほうで報告されました。

成果と今後の課題ということになりますと、今回の実証実験を通して、市民の皆様には、グリーンスローモビリティはどのようなものかという理解、それは深まったと思います。今後こういう交通がどんどん出てくるということと、また、本格導入へのニーズがかなりあるということも分かったということです。

現在、地域公共交通計画という市のほうでやっている冊子あるのですけれども、これが 4 番なののですけれども、これの中に基本方針として、多様な主体の連携や協働による公共交通を補完するという、そういう方針があって、それに基づいて地域が主体となる移動手段の導入という、そういう施策が、もうこの中でうたわれています。

要は僕らが今、今回、実証実験をやったものが計画の中に入ってきていると、これを未来創造戦略室、交通政策班、そちらのほうで、私たちはそれに協力するとい

うか、いわゆるアドバイザーみたいな感じで関わらせていただいてまして、一緒に打合せを何回も重ねていまして、実際に、具体的にいつどうやって導入するかというスケジュールから何から、具体的な内容を今、検討を進めている最中です。

その中で、特に課題となっているのは、まず地域に運営組織を立ち上げなきゃいけないということで、今回実証実験やった七次台の地域で、私が住んでいますので、そこに立ち上げようという話が今、私たちの中では進んでいます。

実証実験する最中もそうだったのですけれども、ドライバーとかスタッフを集めるというのがやっぱり課題です。どうやって集めようかという話です。

それから、集めて組織化したのはいいのだけれども、それを持続可能な形で継続していくということも、どうやったらいいのかということも、これから検討していく課題だと思っております。

これからの展望といたしましては、市では、この計画に基づいて移動手段の、各地域で、あちこちで手を挙げてもらうことを想定して公募を行うわけなのですが、まず一発目は、私の住んでいる辺りとしてやっていこうと思っているのですが、それについてガイドラインを今検討しているところで、ガイドラインに基づいて公募を行って、今年度中に実証運行を始めて、来年度ぐらいから本格運用で、そのようなスケジュールで考えられるみたいです。

この実証実験対象地域であった七次台3丁目、4丁目、野口において、まず運営組織を立ち上げるということを自治会長さんとかに声をかけてやっていこうと今思っているところです。

まず、さっきも課題の中で言ったように、そういう組織を立ち上げた上で、ルールづくりだとか、ドライバーとかのスタッフ募集をどうやっていこうかという、運営組織の中で、まず進めていくという形を取りたいと思っています。

ただ、人を集めても、何やっていいか分からないからということで、多分、僕らがまず一緒に入ってやるという形で、その前に、このガイドラインというのが大事になっていて、こういうことをしたらいいというものを標準的なものを市の担当の方と今、詰めているところですから、そういう流れで今後は進んでいく。要は、市の事業として今度は、これからやっていくという、私らはそれにアドバイザー的に関わっていくと思うのですけれども、そういうことです。以上です。

○委員長

ありがとうございます。では、質疑応答に行きたいと思います。どなたかございますか。

○●●委員

今日は、この場に地区社会福祉協議会の代表として列席しているのですが、先般、まちづくり協議会の●●として、未来創造戦略室の交通政策班の方から丁寧な御説明をいただきました。

私個人は大山口地区ですので、周りを見渡して、七次台が最初でしょうという話をしていたので、今回再度ですけれども、お話を伺って、大変心強い取組であると思いましたので、ぜひ成功することを願っております。以上でございます。

○委員長

ありがとうございます。

○●●委員

お世話になります。私もこのグリーンスローモビリティに関心はあるのですが、地域で私も団体を持っていますので、そこで市からの説明も受けました。

ただ、グリーンスローモビリティは、20キロとか25キロぐらいしかスピードが出ないということを聞いておりまして、公道の大きい通りを通れるかどうかなど、いろいろと問題があるのかなって思っています。それに、拠点をつくって、やらなきゃいけないのしょう。応募をかけるとか、定期的なルートをつくるとかという話になると思いますが、そこら辺がどの程度考えているのかなと思っています。

私の地域も込み入った地域なので、実際に利用することは必要だなと思っておりますので、もっと参考になればなと思っておりますけれども、今検討中のところなのですけれども、よろしくどうぞお願いします。

○「ほんとうに住みやすい白井」を本当にする会

この実証実験もそうですが、広い通り、県道とかを走る際には、端のほうを歩いてゆくなり、どうぞお先にという感じで走るわけですけれども、なるべくそういうところを通らないで、そういうルートを考えてやっていたし、今後も多分そういう形になると思います。

松戸とか、もう既にやっているところもあるのですけれども、そこも多分そんな感じでやっているかと思っています。

○●●委員

拠点をつくって、事務所をつくって、そこで受けるとかって形にしなきゃいけないのかなと思っています。

○「ほんとうに住みやすい白井」を本当にする会

先ほども言ったように、やり方は、それぞれ地域で、それぞれのところで運営していくというものになっています。要は、それぞれのところが手を挙げて、それに対して市のほうから、車両の手配とか、そういうのは市でやってくれるという、そんな形で今、進めようとしているわけなのです。

たまたまこうやって七次台地区で実証実験をやったので、まず、そこがパイロット的に最初になるのかなという、多分、市もそういうもくろみでいて、それで私たちは、やろうとしているところになっています。

○委員長

よろしいですか。ほかはどうですか。

●●委員、どうぞ。

○●●委員

私、住まいが十余一なものでして、桜台小学校区なのですが、桜台のほうですと、お店も近くて行きやすいというところなのですが、私、十余一なものですから、非常に近くにお店がないということで、今は車に乗れているからいいのですが、あと何年かすると、車も乗れなくなると買い物どうするのと。うちの妻は駅前に引っ越すなんていうことを言っているのですが、やっぱり場所によって、買い物難民といいますか、動けなくなってしまう方が非常に多いかと思うのです。

今回、私も広報とかで見て、何で七次台なのだろうと思っていたのですが、合点がいきました。ありがとうございます。

スピードに関しては、ゆっくり走りますので、事故はまずないのかなと思ってはいるのですが、ドライバーの確保がやっぱり一番問題なのかなと。この間も大きな事故が、部活のあれがあったがために、今後ドライバーの確保というのが、より難しくなっているのかなというのが1点。

あと、駅に行きたいとか、買い物に行きたいという方が多かったというようなお話なのですが、千葉の花見川団地は、団地の中をぐるぐる回っているのもあるらしいですね。あそこは商店街の活性化ということも含めて、動かしているということもありますので、その地区のそれぞれのニーズに合わせた形で今後取り組んでいただければ、白井市もいいのかなと思います。

先駆けということで、実証実験をありがとうございました。ドライバーは、どのように確保したのでしょうか。

○「ほんとうに住みやすい白井」を本当にする会

今回も、実はドライバーは二種免許を持っている人を手配しようと思ったのですが、どこもいません。バス会社にも声をかけたけれども、そんな人を出せませんという話になり、要はドライバー、そういう人たちが足りないから、バスが減っているのです。

なので、これだったら一種の普通の免許で、普通免許で乗れますからということもあって、これをお勧めできる場所ではあります。

あと、地域ごとに多分ニーズは全部違うと思っていて、七次台はたまたまこの車がマッチしているかなというふうに思ったので、ここで実証実験したのですが、例えば今の十余一のほうとか、あと平塚とか、北部のほうになりますと、地域公共交通計画では、オンデマンドのバスやタクシーみたいのを走らせようという計画が出ていますので、地域ごとに適したものを導入すればいいかなと思っています。

確かにドライバーというのは、すごくネックだと思うのです。そういうプロの方がなかなか確保しにくい状況になっているので、だから地域の中で、そういうボラ

ンティア的にやってもらう、謝礼金までは出すとしても、その辺のやり方も、今後、検討していくという形で今、市と話している最中でございます。

○委員長

よろしいですか。ほかはいかがですか。

●●委員。

○●●委員

説明ありがとうございました。

今回、事業成果ということで、地域の新しい交通の一つとして認められたということで、市でも動きが活発化しているということなのですけれども、最初に確認なのですが、今年度、実証をさらに積み重ねて、来年度にはもう事業運行化していくということなのですが、スケジュール感的にはどうなっていくのでしょうか。

○「ほんとうに住みやすい白井」を本当にする会

実は、ついこの間も市の方と話したときには、物価高の状況になって、予算が合わなくなって、補助金のタイミングだとか、その辺も含めて話しているところですが、今年度の終わりぐらいには実証運行できたらいいねという感じで今、話は進んでいるところです。

○●●委員

最終的な事業運行というのは、どのぐらいの年度を見込んでいるのでしょうか。

○「ほんとうに住みやすい白井」を本当にする会

来年度の初めに本格運用の準備期間を設けて、来年の夏ぐらいから本格運用というスケジュールではあると思います。ただ、そこが半年ぐらい遅れているかなという状況です。

当初の計画だと今年度の秋頃に公募をかけて、それに基づいて実証運行を今年度を実施して、来年度から本格運用という感じで、当初は考えられているようだったのですが、ずれ込んでいくかなと感じています。

○●●委員

ありがとうございます。私の想定よりも、はるかに速いテンポ感で動いているのだなと思いました。分かりました。

前提として、地域運営組織を立ち上げるということが必要だということで、それについての検討というがとても大事なポイントになると思ひまして、そこはかなり丁寧にやるべきところかなというふうに、市民連携の視点から思ったものですから、結構テンポが速く進んでいるのだなというところが、非常に印象に残りました。

それで、地域運営組織の立ち上げで教えていただきたいと思ったのは、この手の地域運営組織を立ち上げるときの構成メンバーというのは、どんな方々が想定されているのでしょうか。よろしくお願いします。

○「ほんとうに住みやすい白井」を本当にする会

自治会やまちづくり協議会とか、そこを中心にしていければと考えています。七次台地区には協議会がないので、各自治会長さんをお願いして、まずは実践してもらおうということで今、話はしています。

自治会の場合は自治会役員がいらっしゃるので、役員さんから出るという形もあり得ると思っていて、なかなか難しいのですけれども、継続して続けていくことも考えながらやらないといけないので、そこは自治会長さんとお話ししながら進めようかなと思ったところです。

○委員長

ありがとうございます。

外野からの意見ですが、それであれば、これを機会に、運営主体としてのまちづくり協議会を一つ、作ってしまえばよいのではないかなとか思いました。

ほかの方、どうですか。

どうぞ。

○●●委員

ありがとうございます。

昨年のもちボラひろばで実証実験の様子を拝見させていただいて、非常に高齢化が進む中、また、障害のある方たちへの移動手段としては、素晴らしいなと感じました。

これが一部の市民にとどまらず、例えば今まちづくり協議会という話も出てきましたけれども、まちづくり協議会とか地区社協とか、様々な団体にも認識させていただいて、どういう形ですのかというのも方向性を示していただくと、いろいろな意味で賛同が得られるのかなと思いました。ありがとうございました。

○委員長

ありがとうございます。ほか、どうですか。

○●●委員

今回、実証実験でドライバーをされたのは、どなただったのですか。

○「ほんとうに住みやすい白井」を本当にする会

ここにいる2人はやっています。ほかに全部で10人ぐらい集めました。いろいろな知り合いにあちこちお願いして集めました。だから、なかなか集めるのに苦労しています。

外の地域の方からも数人入っていただいています、手伝ってもらいました。

○委員長

私も質問してよろしいですか。ドライバーの方の感想というのは、どうだったのですか。利用した方についてはアンケートで結構捉えているという感じですが、ドライバーして楽しかったのか、プレッシャーがあったみたいな感じなのか。

○「ほんとうに住みやすい白井」を本当にする会

実はあります。それも報告には入ってしまして、今手元にはないのですが、やはり車内コミュニティーができていて、なかなかよかったとか、楽しかったみたいな感想もありました。

そういう意味からすると、私は運営自体も一緒にやっていて、いろいろ時間の割り振りとかをやっていたので、パズルをやっているみたいで面白かったです。いろいろな人が乗ってきたりとか、一度、七次台小学校の子供が、たまたま西白井コミュニティプラザで見たからといって乗せていっちゃったりして、なかなか面白かったというのが私の個人的な感想です。

○「ほんとうに住みやすい白井」を本当にする会

私は、日曜日の2時間だけを2回やったくらいなのですが、私自身は在宅勤務しているので、平日でもできたかもしれないなとか思いました。

あとは、実際走らせているときに安心感があったのが、隣にもう一人座っていて、一人でやるよりもかなり安心したかなというところもありました。

でも、逆に言えば、私はこの団体に入っているから、絶対1回ぐらいは参加しないとまずいよなと思い、手を挙げましたが、トラブルがあったらどうしようとか、そんな不安はあった状態でしたので、多分、この団体に入っていない人から見ると、もっと障壁が高いのかなと思いましたので、そこをどう下げるかとか、私みたいに普通に働いている人間が、どう入るかというのを考えなきゃいけないかなというところでした。

○委員長

ありがとうございました。

○委員長

ありがとうございます。よろしいですか。

それでは、「ほんとうに住みやすい白井」本当にする会さんは、以上とさせていただきます。どうもありがとうございました。

では続きまして、しろいdeあそ部さんの御準備をお願いいたします。

どうぞ、御準備できたら、よろしくお願いします。

○しろいdeあそ部

しろいdeあそ部の●●と申します。説明は着座で失礼します。

一部抜粋したものになりますが、お手元に資料をお配りしてありますので、そちらをご覧くださいながら聞いていただければと思います。

まず、我々の団体についてですが、発足は、令和元年で、コロナ禍であまり活動していない時期もあったのですが、白井市を拠点にボードゲームや謎解きイベントを通して地域交流を図るという名目の市民団体であります。

基本的には、定期的なイベント開催を考えていまして、今回の補助金を頂きましたものについては、みんなの居場所づくり事業ということで頭をつけて、アナログゲームを使った地域交流をできるイベントを開催して、みんなの居場所をつくるというところを目的とした内容で補助金を頂きました。

きっかけは、この団体の目的でもあるのですが、子供や地域の人が交流できる場所が、昔であれば、いわゆる地域のバス旅行などがあったと思いますが、そういうのも多分、今ではないですし、やはりそういった交流が昔と比べて地域交流が減少傾向にあるのではないかなと団体としても感じているというのと、あと、市内の公共施設やお店も使ったことない人もいるのではないかなというところから、この居場所づくり事業ということで去年の補助金をもらいました。

目指すところとしては、やはり子供や地域の人、地域の人といっても他校の子供とかも含めて、交流できる居場所を提供したいなというところと、市の施設であるまちづくりサポートセンターも含めて、こういう場所があるのだということを周知したいなというのがあり、この事業をやったという形になります。

定期的な開催もあるので、結構活動は色々としているのですが、まず大きいところとしては、毎月第2、第4金曜日の夜、これについては、3年ぐらい実施しているものになりますが、定期的にボードゲーム会を実施しています。西白井にあるアンズハウスというお店が、コロナのときに閉店しそうだと話があり、レンタルスペースになるというところから始めた事業なのですが、これを引き続きやっています。来週の金曜日にもまたやりますが、これはずっと今年度も続けています。

あとは学童で、ボードゲーム会ということで、これは本事業と外れているものですが、第一小の学童では、毎月ボードゲームの日というのをやっているようなところなんです。

それが波及して、第二小の放課後子ども教室というところで、去年は2回行きました。2回行って、ボードゲーム会をやったという形です。

今回、新規で実施した事業としては2個あるのですが、1個がしろいd e ベイ大会で、2回開催していて、1回は8月の夏休み中、もう1回はまちボラひろばという、まちサポさんとボランティアセンターさんの共同開催のイベントの中で開催させていただいています。

人気ホビーのベイブレードという、いわゆる現代のベーゴマを持ち寄った大会を開催しまして、タカラトミーのおもちゃなのですが、タカラトミー側に申請して、手前に写っているスタジアムというものなどをタカラトミーにもらって開催できました。

参加者は、2回とも40名ぐらいで、大会運営するに当たって、インターネットのサービスでトーナメント大会を簡単に開催できるというT o n a m e l というアプリ

りがあるのですが、それを活用しました。大会の結果とか全部運営側で入力しているので、結構人力だったなとは思いました。

トーナメント形式でやってしまうと、負けた人がその時点で終わりになってしまいうので、総当たりというわけではないのですが、1人当たり3回もしくは4回、アプリ上で対戦相手を出していくのですが、それをこの会場で、次の試合、このA会場だと誰々君と誰々ちゃん、B会場は誰々君と誰ちゃん、C会場では誰々君と誰々ちゃんというように、こっちがコールして来てもらって、スタッフが、今からゴーシュートと言って、勝った人はこっち来てと言って、結果をパソコンに入力していくというのをやって運営しました。

そんな感じでやっていって、最終的に順位を全員つけて、1位から3位の人については表彰して、優勝者にはシールを、それもタカラトミーからもらったシールをあげるというのをやりました。

あとはもう1個、これは市民文化祭ということで、これも実は毎年参加しているものでして、今回で4回目ぐらいの参加だったのですが、市民文化祭で将棋大会と囲碁大会が昔あったけれども、囲碁大会がなくなるという話を聞きまして、何かできないかなということで、最初はボードゲーム大会でやっていました。ただ、毎年ボードゲーム大会だけだと面白くないかなということで、毎年やることは変えていて、去年については、eスポーツイベント、e縁日ということで、テレビゲームの大会というか、イベントのようなものを去年はやりました。

やったこととしては、プロジェクターで、基本4人対戦系のゲームをやっています。

マリオカートとかスマッシュブラザーズみたいな、子供たちだったら知っているし、1回はやったことあるようなゲームをプロジェクターでやりつつ、写真の手前のところに、大きい白いポーチに見えるものがあると思うのですが、VRのゲームを1個持ってきていまして、やったのは8番出口という、映画化したようなゲームで、Y o u T u b e でもとても人気なので、やったことはなくても内容は知っているという子供が多かったなと思うのですが、目の負担も考えて、1人3分で、0番出口から何番出口まで行けるか、タイムアタックみたいな感じでやりました。最高7番出口まで行った子がいました。

ほかにもリングフィットというS w i t c h のゲームで、体を動かす系のゲームも設置しまして、誰が一番ハイスコア取れるかということで、私の記録が、1回ミスをしてしまったのが最高記録だったので、もしそれ抜いた人がいたら、お菓子をあげるというようにやったのですが、終了時間の残り10分ぐらいで、まさかのパーフェクトを取る子供が出ました。

あと、ポケポケというスマホアプリがあるのですが、P o k e m o n C a r d G a m e P o c k e t というもので、無料で遊べるものになります。その対

戦を地域の子供たちとやってみたいなと思ひまして今回やってみたのですが、参加者 10 人に満たないぐらいで、あんまり魅力的ではなかったのか、周知が失敗したのかは分からないのですが、そんな感じでした。

ただ、その際、子供たちと僕とでフレンド登録をしまして、定期的にカードとかを交換するというのが、今でも続いています。

補助金の主な活用としましては、大体が会場の使用料として使わせてもらっているのと、今回はスタッフの法被を作成しました。というのも、誰がスタッフか分からないということがよく言われていたので、法被を着用することによって解消できるかなと思い、購入しました。これは買ってよかったと思っています。

あとはテーブルマットということで、月 2 回やっているアンズハウスで、結構机を傷つけているな、申し訳ないなという気持ちもあったので、テーブルマットを購入して、ボードゲームをしているというような状況です。このあたりの購入に充てさせていただいています。

成果としましては、イベントの参加者は、延べ人数なので、もちろん同じ人カウントしている部分もあるのですが、500 人を去年は超えていまして、LINE の登録者数も 200 人を超えたというところです。事業周知やイベント周知は LINE を活用しているので、それなりの人に届いているのではないかなと思っていますところ。

あと、これがかなり良い成果と思っているのですが、僕らがやるイベントの中で、お友達になってくれる子供たちが結構増えてきて、去年は課外活動として、皇居で謎解きを無料でできるものがあるのですが、それに行きませんかと声掛けして、去年 11 月 24 日に実際行ってきました。今年度も、よみうりランドの謎解きに行きました。中学生は親の同行なしで参加してくれているという感じです。

ただ、課題としては、これは以前から言っていることですが、固定化するスタッフというところです。あと、資金調達の仕組み、資金が足りないというよりは、有料イベントにできるだけ来てもらう工夫が必要だよなというのと、先ほどあったように、うちは情報発信の効率化がまだまだ足りていないと思っているのと、事後周知はあんまりしていないのです。こういうイベントやりましたみたいなことはやっていなくて、そこはできたほうがいいよねというのは課題意識として持っているというところがあります。

これからということで、既にやっていることとして御紹介させていただくと、LINE については、これまでもやっていただけれども周知していなかったことなのですが、今年度からイベントに来る人に周知していることとしては、スタンプカードのような機能を使用していて、10 回来たら 1 回無料ですよという仕組みを取り入れていますので、できるだけ有料イベントにお金を払ってくれる大人の人には来てもらおうという試みを今年度から実施しています。

プラス、ボードゲーム会については、実は去年から、1個マージャンの卓が立っています。なので、マージャンを記録するというのを始めていまして、記録するからには、また来るかなと思って始めました。これも無料アプリのA m p a i というものを使いまして、記録して行って、今年優勝した人には、何か粗品を差し上げますと言って、毎回マージャンする大人の人たちに来てもらおうという工夫をしています。

あとは、トーナメントとか、そういった少し大きいイベントをやるときは、運営を工夫しないと大変なので、その辺はネットで調べて、よさそうなサービスを活用していくということは今後もしながら、今年度も、あそばナイトという月2回やっているのとは別で、1個か2個は何かしら子供たちが来てくれる、楽しくなってくれるようなイベントを開催しようと思っております。

発表は以上になります。ありがとうございました。

○委員長

ありがとうございました。それでは、委員の皆さんから御質問などありますか。どうぞ。

○●●委員

どうもお疲れさまでした。

毎年、新機軸が入る団体なので、非常に興味深く聞かせていただきました。少し事務的な質問になるかもしれませんが、事業収支決算書の支出のところで、食材費とか食糧費があまり使われていない印象なのですが、これはどういったことだったのでしょうか。

○しろい d e あそ部

ありがとうございます。

まず、分かりやすいところから言うと、食糧費として計上した1万4,000円なのですけれども、これは昼を挟むイベントをやりたいという声が当初あったので、そのときのスタッフのお弁当代は補助金対象だということを見て、一応盛ったものになります。実際は昼を超えてのイベント開催をあまりやらなかったのと、弁当代は別に補助金から出さなくても、みんな自分でやるよねという感じだったので0円になったのが、この食糧費の部分です。

食材費については、月2回実施しているあそばナイトというところで、自分が行ける日に軽食をみんなで作るような企画をやりたいというスタッフがいたので、計画はして、予算は2万円を盛ったのですけれども、実際やったのが、お汁粉を作るのが1回と、かき氷を作るのが1回になりまして、そのスタッフもあまり参加できなかったというのもあって、思ったほど使っていないという感じになります。

あと、1万3,000円の食材費は、イベントのお菓子を買っているものになります。あそばナイトは、料金で言うと大人500円、子供100円取っているのですけれど

ども、会場にお菓子は設置してあって、それは自由に食べていいよとなっています。それがこの1万3,551円になります。レシートを取っていないものもあって、ここに計上されていないものもあるのですけれども、毎回購入しているものになります。最近、子供たちに2,000円を渡して、好きなお菓子を買ってきてくださいという風にやっています。大体、毎回1,000円行かないぐらいか、超えるぐらいの額でお菓子を用意していて、一番上の食材費については、そのようになっています。

○●●委員

分かりました。やはり食関係を導入するのは、結構ハードルがあるというか、大変という感じですか。

○しろいd e あそ部

そうですね。市販のお菓子だったら、アレルギーに気をつけてね、でやれるのですが、やはり作るとなると、結構気にしなければいけないことも多いので、結局やったのは、ほとんどたれをかけるだけのお汁粉とかき氷でした。

○●●委員

やはり食べ物関係を導入すると、他の団体や主体との連携も必要になってくるかもという感じでしょうか。

○しろいd e あそ部

そうですね。スタッフも、毎月2回の金曜日の夜であれば、事前に予定入れてくれているのですが、土日のイベントだと、なかなかスタッフが集まらず、しょうがないから、今回は2人で何とかするみたいなき時も結構あります。

実は、eスポーツ縁日は、人数を集めて何とかなったのですが、バイブレード大会は1回、2人でやりました。何とかなったのですがけれども、当日来てくれる親御さんたちに助けてもらった部分も大きかったので、スタッフの問題は、結構どうにかしないととは思っているという感じです。

○●●委員

分かりました。ありがとうございます。

○委員長

ありがとうございます。ほかはどうでしょうか。

○●●委員

ありがとうございます。

今、子供たちが家の中でゲームをするとか、友達との交流の少ない子供がいる中で、こうやって人を集めてやるという本当に大事なことをやっただいているなと思います。ぜひ継続して頑張ってください。ありがとうございます。

○しろいd e あそ部

ありがとうございます。

○委員長

ありがとうございます。ほかはどうでしょうか。よろしいですか。

ジャンルとして、子ども食堂じゃないですが、やっぱり多世代でやるということとか、例えばゲームだったら国籍も超えられるとか、楽しいというのに国境もないとか、そういう意味もあると思います。

遊んでいるだけとか、マージャンの話もありましたけれども、マージャンしているだけだよね、みたいな話もあるかもしれないのですが、私は、例えばの話になりますが、特に高齢男性がひきこもりで孤立しがちという話があるから、その方がマージャンでも何でもいいのですが、それを目当てに外に出て、健康マージャンで脳みそを使える機会があることが、最終的にはフレイル予防とか健康寿命の延伸に役立つと思いますので、ぜひそういう貢献しているのだという自信を持って、この先も頑張っていていただきたいなと思いました。

助成金とかも、あまり遊びという分野では対象になりづらいのですが、居場所という方向でしたら少しずつ補助が出始めているので、もちろん参加費で稼ぐというのも一つの手だとは思いますが、あまり高くすると来られない子も出てくると思うので、ぜひ助成金も使いながら頑張っていていただきたいなと思いました。

では、以上とさせていただきます。しろい d e あそ部さん、どうもお疲れさまでした。

それでは、平日の午前中から御参加いただきまして、本当にありがとうございました。一旦これにて成果報告会は、おしまいとさせていただきますので、団体の皆さんは御退場いただいて大丈夫です。本当にどうもありがとうございました。

続きまして、最後の議題となるその他について、事務局から説明をお願いいたします。

○事務局

その他について、事務局から説明をいたします。今後の委員会スケジュールについてです。

今後詳細の日程については、メール等で改めて日程調整をさせていただければと考えておりますが、第3回会議を9月頃に実施したいと考えております。内容としては、補助金採択団体への中間ヒアリングと、今後の委員会の運用についての議論を実施することを考えております。

第4回会議は11月頃に実施したいと考えています。内容は補助金採択団体の事業視察と委員会の運用についての議論と決定を考えております。

第5回会議は2月に実施の予定です。内容は成果報告会の開催と、次年度の補助金の募集関係についてを議題として考えております。

説明は以上となります。委員長に進行をお返しいたします。

○委員長

ありがとうございます。何か質問のある委員さんはいらっしゃいますか。

それでは、時間が想定より早いですが、これで第2回市民活動推進委員会を終了したいと思います。

今日も皆さん、ありがとうございました。次回の会議は先になりますが、次もよろしくをお願いします。